

銀賞

予防保全で設備を守る

株式会社デンソー 幸田製作所

宮崎 瑤子

私は今まで2年半、期間社員として今の職場で働いてきました、今はセンサモールド製品の電気特性検査を担当しています。製造業という業界で、多くの設備機械に囲まれて仕事をするのは初めての経験です。上司の指導の下で作業しているので、安全とわかっているのにボタン1つ押すのもなんとなく怖い。それくらい私にとって設備は何から何までよくわからないものでした。できることといえば、作業要領書に従って生産をし、いつもと違うことやわからないことが起きれば、「止める・呼ぶ・待つ」を実践することくらいです。期間社員という立場で設備に対してアクションを取れることは、ほとんどありません。少なくとも当時の私はそう思っていました。

しかし、働いているうちに操作ボタンを押すことも、怖くなくなるとともに1つひとつの挙動すべてに意味があって、どんな理由で設備が止まっていて、どうしたら解決できるかという理解が少しずつ増えていきました。その過程は想像以上に楽しく、もっと知りたい、設備に対してやれることを増やしたいという気持ちが膨らんでいきました。

私を根気よく指導してくださった上司は設備の異常処置ができるインシュテラーで、設備に異常が発生したら、どんなときもまず初めにその上司に報連相していました。直るのにどれくらいかかるのだろうかと思いながら少しだけ作業のようすを見ていると、30分もしないうちに設備は流動可能な状態に戻りました。ときには、自分の手ですぐに直すことは不可能と判断すると、保全担当の方に連絡、状況を説明し、一緒になって修理や再発防止を話し合う姿も見てきました。そんな上司にこのようなことを言われたことがあります。「もし、設備に対してやれることを増やしたいと考えているのなら、異常処置の前に予防保全というワードを常に頭に入れておいてほしい、生産を突発的に止めないためには、設備が常に良い状態であることが必要だよ。そのために、壊れる前に気付いて防ぐにはどうしたらいいのか、保全や生技など沢山の方々とコミュニケーションをとりながら、みんなで守るという意識が大切だよ。」私はこの言葉を聞いて感銘を受け、実際の行動につなげたいと強く思いました。

まず私が予防保全として行動に移したのは、異常兆候発見と設備内清掃です。毎日同じ設備を担当している自分だからこそ気付けることがありました。ある日、いつもどおりに作業を行っていましたが、テストヘッドをレバーで上昇させる際、普段とは違う重さと異音に気付きました。すぐに作業を止め、上司に連絡をしました。「これは完全には壊れていないけど、ベルトが痛んでいるか、外れかけている可能性があるから保全に見てもらおう。」ということになり、調整をしてもらいました。完全に壊れてしまうと大停止につながる可能性がありました。気付けたのは日々しっかりと設備を見て、聞いて、確かめる意識を持つようになったおかげだと思いました。

またある日には検査装置の測定部が時々動作不良や測定異常を起こしていたのですが、よく見ると樹脂クズが溜まっていた。特に測定部は重要な個所で触れないようにしていましたが、樹脂クズが悪さしているのではないかと思い日々5～10分間、集塵機を用いて綺麗な状態を保つよう清掃するようにしました。すると測定部の動作不良や測定異常もなくなってきたのです、私は清掃の重要性を改めて理解できた出来事でした。

私は2022年1月より正社員となり、これからもインシュテラーを目指し、より予防保全の知識を増やし、実際の行動に移すことが今の目標です。私を育ててくれた先輩社員のように、作業員や保全員など、いろんな方々を巻き込んでチームが一丸となってPM活動を盛り上げ、予防保全で設備を守っていきます。